

コラム「はせぶら」

東浦には意外と知らない名所がたくさんある…そこで!

歴史に思いを馳せながら町内全6地区を「はせぶら」広報情報課の職員がめぐります。

東浦町の歴史に思いを馳せる

はせぶら

生路編

生路井を目指して歩く



生路井 4



1 伊久智神社



閻魔大王 3



2 大楠の森

「生路井は日本武尊ヤマトタケルノミコトが見つけたといわれる」と聞いてから、どんな井戸だろうと思っていた。今回は生路井を取り上げようと思っていたが、生路井周辺を歩いているとたくさん見どころがあることに気づいた。そこで、生路コミュニティセンターを出発し、生路井までの道のりでお会いした見所を取り上げることにする。

①伊久智神社

祭神は木花開耶姫このはなさくやひめ(安産の神様)と塩土老翁しおつちのおじ(製塩の神様)。生路では製塩が盛んであったというので、塩の神様が祀られているのはその由縁だろうと思っていた。では、安産の神様はどんな由縁があるのだろうかと思いつ、伊久智神社の方に聞いてみると「潮の満ち引き」にも関係があるそうだ。人の生死は潮の満ち引きに深い関係があるとされる。古くは「生道神社」の名が使われていたそう。「生道」とは生きる道(生まれてから死ぬまで)を守る神様を指すという。また、塩土老翁が海水か

ら塩を作る製法を教えたのが生道塩のはじまりといわれている。この地で行われていた「製塩」は、当時、生きていくために不可欠なものだったのだろう。

②大楠の森(伊久智神社内)

目通り4.7mをはじめ樹齢数百年を数える楠の大木が並んでいる。この大楠の森にちなんで、昭和52年に町の木を「クスノキ」とした。

③閻魔大王

大楠の森の裏を歩いていくと、神後院の閻魔大王の像に出会った。反省の念をもって閻魔大王に水をかけると、自分のついでにまつたウソを洗い流せるそう。像に面している道路は通学路。神後院の方に像が設置された経緯を聞くと、子どもたちに「ウソをついてはいけない」と知ってもらうために、この像を置いたそう。ひとりで歩いているとジロリと見られているようで、ドキッとしながら通り過ぎ、生路井を目指す。

④生路井



昔、日本武尊が生路の地を通った。暑い日でのどが渇いていたが、飲み水が見つからない。そこで、尊が弓のはずで1つの岩をはね退けると、その下から水が湧き出たという。が、はじまりといわれている。その後、村人は共同井戸として大切に使用してきたが、心無いものが水をくむと、たちまち濁ったという。現在では年に1回、地元の方が掃除を行い井戸の維持を行っている。地元の方は生路井ではなく「森井戸」と呼ぶそうだ。

歩いていくと、紹介した4つの見どころ以外にも、天満宮や原田鳴石めいせきの銅像など、見どころがまだまだある。ここにはどんな背景があるのだろうと思いを馳せながら歩いてみるのもオススメだ。(H)

参考：町観光協会ホームページ、改訂 東浦歴史散歩、伊久智神社略記、伊久智神社ホームページ